

# 命の重さ考え続け

「紫雲丸」沈没事故から66年



生徒を代表して言葉を述べる柿本准星さん

＝いずれも高知市長浜の南海中で

## 高知・南海中で追悼式

高松沖で起きた旧国鉄宇高連絡船「紫雲丸」の事故から66年になる11日、修学旅行中の生徒28人が命を落とした高知市立南海中（同市長浜）で追悼式典が開かれた。南海中や近隣小中学校の生徒・児童や遺族ら約200人が参列し、祈りをささげた。【北村葉

紫雲丸は1955年5月11日の早朝、貨物船「第3宇高丸」と衝突して高松沖で沈没した。犠牲者は小中学生を含む168人にも及び、この事故は全国の学校でのプール設置や瀬戸大橋の建設につながったとされている。式典の冒頭、広瀬啓二校長は「ここで学ぶ生徒たちが中学校生活を満喫し、心も体も立派に成長し、地域に誇

れる南海中学校にすることが、66年前冷たい瀬戸内海で亡くなられた28人の方々への何よりのご供養になる」とあいさつ。生徒会長の柿本准星さん（3年）は「毎日家族と話ができること、友達が元気で過ごしていることに感謝し、先輩たちの思いを受け継ぎながら命の重さを考え続けていきたい」と生徒を代表して誓いを立てた。そ



献花をした後、手を合わせる参列者

の後、参加者がそれぞれ思いを込めて慰霊碑に献花した。

参列した小松志磨子さん（80）は「別の班で一足先に出発したので紫雲丸には乗らなかつたが、多くの友達を亡くしてただ泣いて泣いて過ごした。体が元気なうちはお参りを続けたい」と話した。

# 受け継ごう 命の重さ 紫雲丸遭難事故追悼式

## 紫雲丸の悲劇語り継ぐ

### 事故66年 南海中で追悼式典

168人が死亡した旧国鉄宇高連絡船・紫雲丸事故から66年となる11日、修学旅行中の生徒28人が亡くな

った高知市立南海中学校（同市長浜）で追悼式典が行われ、約200人が失われた命を悼んだ。

式典では生徒会長の柿本准星君（14）が、新型コロナウイルスの感染拡大と事故を重ね合わせ、「避けたくても避けられず、自分たちの努力ではどうにもできないことがある。毎日感謝し、命の重さを考え続けた」と話した。その後、遺族や犠牲者の同級生らが慰

霊碑前に花を手向けた。高知市榎山町の武島東亜子さん（79）は、姉の宮本君子さん（当時13歳）を亡くした。「あの日、家族全員で見送れず、『帰ってくる時はみんな迎えに来てね』という姉の声が忘れられない」と話していた。



慰霊碑に献花する参加者（高知市で）

令和3年5月12日付 読売新聞高知版

## 紫雲丸事故66年 南海中で追悼式

遺族 在校生ら200人

高松市沖の瀬戸内海で1955年5月11日、旧国鉄の連絡船「紫雲丸」が貨物船と衝突して沈没した事故から66年となった11日、修学旅行中の生徒28人が犠牲となった高知市立南海中学校で追悼式があった。

式には当時の同級生や遺



記念碑に献花する参加者ら（高知市長浜）

族、在校生ら約200人が参加。広瀬啓二校長は、同校が南海トラフ地震の津波被害を受ける地域にあることに触れ、「一人一人の与えられた命を守ることはできる。防災活動をして地域に誇れる学校になることが、何よりの供養になる」とあいさつした。

昨年は、新型コロナウイルスの国の感染予防対策で、全国で一斉休校となった時期と重なり、関係者だけで追悼した。1歳年上の姉を亡くした武島東亜子さん（79）は「修学旅行に向かう姉の姿が今でも目に浮かぶ。遺族も同級生も高齢になったが、この出来事が風化しないように願っている」と話した。

（今林弘）

令和3年5月12日付 朝日新聞高知版

# 受け継ごう 命の重さ 紫雲丸遭難事故追悼式

## 紫雲丸事故 風化させず

高知市 南海中追悼式に200人

1955年に高松沖 南海中学校（高知市長で起きた「紫雲丸」の沈没事故から66年を迎えた11日、修学旅行中の生徒が犠牲になった。

事故は55年5月11日朝に発生。高松港を出発した連絡客船、紫雲丸が濃霧の中、別の船と衝突して沈没した。乗客ら168人が亡くなり、そのうち28人が関西に向かっていた同校の生徒だった。

磨子さん(80)は、「66年たっても友人の顔が浮かぶ。事故を風化させないでほしい」と話した。(山仲健一)



慰霊碑に献花する参列者（高知市の南海中）

この日の追悼式で、生徒代表の柿本准星さん(14)は「事前学習で命の重さを考えさせられた。家族や友達と過ごせることに感謝したい」と述べた。その後、遺族や同級生らが慰霊碑に献花し、全員で黙とうをささげた。

同校では月命日の前後に生徒が碑に献花。修学旅行では高松港も訪れ、海に向けて手を合わせているという。亡くなった生徒の同級生で、別班の修学旅行に行っていた小松志

令和3年5月12日付 高知新聞

